

震度 震度階級

## 震度 しんど

seismic intensity. 地震を感じた地点の揺れの程度を示す指標（表 気象庁震度階級を参照）。気象庁では、従来は体感により震度観測を行なってきたが、客観性と情報提供の迅速性の要望から1991年から計測震度計により決めるようにした。なお、震度VIIは被害調査によって決められる階級で、計測震度計によって算出される震度は震度VIが最大である。気象庁では全国600箇所に震度計を設置し、気象専用回線等を通じてデータを収集し、発表している。

なお、マグニチュード（M, magnitude）は地震の規模（大きさ）を表し、地震のエネルギーと対応している。マグニチュードによる分類を以下に示す。

大地震： $7 \leq M$ 、中地震： $5 \leq 7 < M$ 、小地震： $3 \leq M < 5$ 、微小地震： $1 \leq M < 3$ 、 極微小地震： $M < 1$

---

<登録年月>

2000年03月

---

---

# 表 気象庁震度階級

気象庁震度階級		参 考 事 項
階 級	説 明	
0	無感。人体に感じないで地震計に記録される程度。	吊り下げ物のわずかに揺れるのが目視されたり、カタカタと音がきこえても、体に揺れを感じなければ無感である。
I	微震。静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震。	静かにしている場合に揺れをわずかに感じ、その時間も長くない。立っていても感じない場合が多い。
II	軽震。大ぜいの人に感ずる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかる程度の地震。	吊り下げ物の動くのがわかり、立っていても揺れをわずかに感じるが、動いている場合にはほとんど感じない。眠っていても目をさますことがある。
III	弱震。家屋が揺れ、戸障子がガタガタと鳴動し、電灯のような吊り下げ物は相当揺れ、器内の水面の動くのがわかる程度の地震。	ちょっと驚くほどに感じ、眠っている人も目をさますが、戸外に飛び出すまでもないし、恐怖感はない。戸外にいる人もかなりの人に感じるが、歩いている場合感じない人もいる。
IV	中震。家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花びんなどは倒れ、器内の水はあふれ出る。また、歩いている人にも感じられ、多くの人は戸外に飛び出す程度の地震。	眠っている人は飛び起き、恐怖感を覚える。電柱・立木などの揺れるのがわかる。一般の家屋の瓦がずれるのがあっても、まだ被害らしいものではない。軽い目まいを覚える。
V	強震。壁に割れ目が入り、基石・石どろろが倒れたり、煙突・石垣などが破損する程度の地震。	立っていることはかなりむずかしい。一般家屋に軽微な被害が出はじめる。軟弱な地盤では割れたりくずれたりする。すわりの悪い家具は倒れる。
VI	烈震。家屋の倒壊は30%以下で、山くずれが起き、地割れを生じ、多くの人立っていることができない程度の地震。	歩行はむずかしく、這わないと動けない。
VII	激震。家屋の倒壊が30%以上に及び、山くずれ、地割れ、断層などを生じる。	